

【再開発整備の効果と課題について】ヒアリング調査シート

病院名	〇〇大学医学部附属病院		再開発期間	着手：平成12年度～完了：平成20年度					
①再開発整備に至った経緯									
1 再開発整備計画書の有無	有 <input type="radio"/> 無 <input type="radio"/>		経緯						
2 上記の内容（無しの場合は整備実績を基に推測で記載）									
病院再開発の背景	老朽 <input type="radio"/>	狭隘 <input type="radio"/>	機能分散	複雑な動線	疾病の多様化 <input type="radio"/>	医療の高度化 <input type="radio"/>	医療ニーズの変化 <input type="radio"/>	経営状況の鈍化 <input type="radio"/>	その他(医師離れ) <input type="radio"/>
病院再開発の基本理念	安全安心の確保 <input type="radio"/>	7M-7Eの向上 <input type="radio"/>	機能集約	医療の質向上 <input type="radio"/>	高度医療の提供 <input type="radio"/>	地域連携 <input type="radio"/>	医療従事者の育成 <input type="radio"/>	教育研究機能充実 <input type="radio"/>	その他(効率的診療体制確立) <input type="radio"/>
基本理念を実現するための施設整備に関する方策	耐震化 <input type="radio"/>	個室率の増加 <input type="radio"/>	多床室の4床化 <input type="radio"/>	手術室の増加拡張 <input type="radio"/>	ICU等の増床 <input type="radio"/>	がん診療機能強化 <input type="radio"/>	周産期機能強化 <input type="radio"/>	カンファレンスルーム等の整備 <input type="radio"/>	その他(7Eイザリ-整備) <input type="radio"/>
3 再開発整備着手後に発生した変更経緯等の記録	有 <input type="radio"/> 無 <input type="radio"/>								
4 上記の内容（無しの場合は、計画と実績で変更された部分の要因と結果を推測で記載）	<p style="color: red;">計画では改修としていた病棟について、新基準に基づき再度耐震診断を行った結果、I_s値が0.4を下回ることが判明したこと。さらには、耐震補強については病棟機能の確保が困難であることから、改築することとなった。</p>								
規模									
5 整備規模等（再開発整備で(㎡)									
機能	内容	新增改築	改修	備考					
病棟	改築：SR8-1	18,000		地階は給食部門(2,000㎡)					
外来	改修：R4-1		18,000	4階は管理部門(3,600㎡)					
中診	増築：R3、改修R4	6,000	10,000	増築は手術・材料・救急部門					
その他	エネルギーセンター増築：R2	1,800							
基・環	屋外環境整備など基幹・環境整備内容を記載		280	中央機械棟（中央監視室改修280㎡）					
全体		25,800	28,280	54,080					
() 内は基幹・環境整備を含む→			総事業費	約179(184)億円					
6 整備手法									
全面改築（移転整備を含む）			増築+改修	<input type="radio"/>					
予測									
7 医療に関する機能強化内容と成果予測									
機能	項目	整備前	整備後	整備による成果予測					
病棟	病室タイプ	1B=40 2B=160 6B=400 計=600床	1B=200 4B=400 計=600床	病床稼働率 72%→85%					
	標準多床室面積（整備前6B、整備後4B）	46.2	46.2						
	標準1床室面積（㎡）	17.9	24.5						
	個室率（%）	6.67	33.33						
外来	診療科数	12	15	外来患者数 200,000人→300,000人					
	標準診療ブース面積（㎡）	6.3	7.5						
	床面積（㎡）※外来中診のみ	28,000	34,000						
中診	手術室数（室）	10	14	手術件数 5,000件/年→7,000件/年					
	標準的な手術室の内法面積（㎡）	42	56						

8 再開発整備計画書において成果予測が定量的に記載されているものについて、整備前・整備後共に記載。

項目	整備前	整備後	ハード面での整備内容
マッチング率 (%)	50	80	カンファレンス室新設
放射線治療件数 (年/件)	200	300	リニアック棟増築
外来手術件数 (件/年)	0	1000	デイサージャリー部門新設
予測 支出の縮減			-2千万円 小型搬送設備新設
			-900万円 クックチル対応厨房新設

9 再開発整備計画書に記載された集中治療室等の病床数増について、整備前・整備後共に記載。

室名	整備前	整備後	関連諸室を含む1床当たりの面積
ICU 集中治療室	4床	6床	整備前〇〇㎡, 整備後〇〇㎡
HCU 高度治療室	0床	2床	整備前-㎡, 整備後〇〇㎡
MFICU 母体胎児集中治療室	2床	4床	整備前〇〇㎡, 整備後〇〇㎡
NICU 新生児集中治療室	4床	6床	整備前〇〇㎡, 整備後〇〇㎡
GCU 継続保育治療室	0床	2床	整備前-㎡, 整備後〇〇㎡

②再開発整備による成果

成果

1 ①7の成果判定

機能	項目	整備前	整備後	判定
病棟	病床稼働率 (%)	72	88	○
外来	外来患者数 (人/年)	200,000	300,000	○
中診	手術件数 (件/年)	5,000	6,500	×

2 ①8の成果判定

項目	成果	判定	備考
マッチング率 (%)	82	○	近年は減少傾向 (H22: 55%)
放射線治療件数 (年/件)	400	○	近年件数急増により更なる増設必要
外来手術件数 (件/年)	250	×	需要予測を大幅に下回る
支出の縮減	-800万円	×	厨房は○ 搬送は一部メッセージャーに変更

3 患者及び医療従事者への満足度調査の有無

有		無	○	平成24年8月頃
↑ 予定時期				

4 上記調査の結果

調査結果については別紙で添付も可。
不満結果の抽出書き出し。

③再開発整備による第三者の評価

認定を受けていない場合は『未』 ↓

1 病院機能評価における評価結果

認定年月日・Ver

平成22年11月11日・Ver 5. 0

項番	評価項目	評価	所見
4.11.2	集中治療室が適切に運営されている	5	〇〇〇〇・・・・
4.12.2	救急部門が適切に運営されている	5	救急部門の運営は他の見本となる
3.7.6	トイレについての施設的な配慮がなされている	3	トイレの絶対数が不足

④再開発整備による問題点

課題等

1 開発整備手法によるメリット及びデメリット (実際に生じた事柄)

メリット: 全面改築に比べ償還比率低く抑えることができたこと、また、中診手術部門を最初に増築したことで、収入の減少を抑えることができ、病院経営への負担軽減を果たせた。
デメリット: 外来棟の改修において、居ながら改修としたが、診療継続部分からの苦情が頻発し、休日作業が増え予定工程6ヵ月×2分割のところ、8ヵ月×3分割となった。

課題等

⑤再開発整備期間中における変化と対応

1 再開発整備期間中に受けた指定など

指定	指定日	備考（施設面での対応）
総合周産期母子医療センター	H19. 12. 23	NICU6→9、MFICU4→6増床等、病棟3階産婦人科を拡張し対応
がん診療連携拠点病院	H20. 2. 1	

2 再開発整備期間中に判明した課題及び施設面での対応策

〇〇〇〇の患者数がここ数年で倍増しており、その手術待ち患者数の増加に伴い、高度医療ニーズの高まりをうけた地域からの要望に対応するため、ハイブリッド手術室を1室確保する必要が生じ、手術室数が当初計画の14室から13室へと減らす結果となり、手術件数予測を下回った。
 （背景を含め、施設上どう対応したかを記載）

⑥再開発整備完了後から現在に至るまでの変化と対応

1 再開発整備完了後に受けた指定など

指定	指定日	備考（施設面での対応）
高度救命救急センター	H21. 6. 2	救急部を拡張（スタッフスペース縮小）し対応

2 再開発整備完了後に判明した課題及び施設面での対応策

平成21年4月に低侵襲治療への対応として、外来化学療法部を設置することとなり、既存カンファレンス室を縮小したことにより狭隘化。
 （背景を含め、施設上どう対応したか、又は対応予定などを記載）

⑦今後の施設整備に関する課題

1 現在及び、今後見込まれる問題点についての対応策など

県から地上型ヘリポート（格納庫・給油設備を含む）整備要請を受けている。
 ※（整備費用は県からの補助3割の予定）
 最大津波高さの想定が見直されたことにより、病棟地階にある自家発関連設備の移設を検討中。
 （背景を含め、施設上どう対応したか、又は対応予定などを記載）

近年の手術性待ち患者数の増加から手術室数の増室要望が出ている。

2 今後の再開発整備予定のスケジュールや構想等（自由記述）

基盤整として平成27年度に増築棟及び、平成32～35年度にかけて基幹・環境整備（ライフライン更新）を計画している。